



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第二〇三号〜

小満 しやうまん

五月二十一日

北伊勢大神宮

久しぶりに、桑名市の多度大社の上げ馬神事に行ってきました。急坂を人と馬が一体になって駆け上る勇壮な神事は、ひと馬ごとに歓声が上がります。

この多度大社は、「北伊勢大神宮」といわれます。

なぜなら、本宮の多度神社のご祭神は天津彦根命あまつひこねのみこと。この神が天照大神あまてらすと須佐之男命すさのおのみことが誓約うけひの際に生まれた五柱の男神の一柱で、天照大神の御子神である由縁からです。

また多度大社は、織田信長の長島一向一揆平定の際、兵火にみまわれ、堂宇はすべて灰となってしまいますが、江戸時代、桑名藩主の本多忠勝から莫大な寄進を受け、社殿が再興されます。そして、伊勢参宮の旅人も立ち寄ったように、

「お伊勢参らば、お多度をかけよ

お多度にかねば、片参り」

と謡われるほどに復興しました。

上げ馬神事は、南北朝時代に始まったとされますが、神社周辺の六地区から馬や騎手が出されます。神事では、急坂の馬場の両側に揃いの半被を着た男衆がずらりと手を広げて並びます。馬をうまく誘導する役目です。

その男衆が本番を前に円陣を組んで歌うのが、伊勢音頭なのです。ヨイトコヨイトコセー。お馴染みの節を多度の地で聞くと意外でしたが、男衆のころを一つにし、奮い立たせるのが伊勢音頭であったのです。伊勢と多度の関わりを見つけ、やはり北伊勢といわれることはあると合点がいきました。

そして、いよいよ伊勢神宮内宮宇治橋の鳥居が、桑名の七里の渡し跡に建ちます。今月三十一日に御木曳おきひき、そして来月六月七日に竣工式が行われます。伊勢国の入口に新しい第一の鳥居が建ち、また伊勢と桑名の絆が結び直されるのです。

文 千種清美

